

ラーラスクエア第9回に多数ご参加いただきありがとうございました。リピーターも増え、嬉しいです！参加された方からの感想を抜粋いたします。

・現地のラーラ会協力者が直面した危機、恐怖の報告はあらためてこたえました・・・コーランに聖書物語が入っていることにびっくり仰天です。これがイスラム教か、と私たちは改めて驚きましたが、法をご都合主義に運用し女性を苦しめているのは暴力を是とする男性社会、権力保持主義者のエゴであると思えませんでした・・・アフガンの女性たちに、他国の支配なきほんものの自決権を

・2021年からの「新しいタリバン」は、諸外国から人権侵害の指摘を受けて、以前よりは女性の権利を尊重するようになるかと思いましたが、レザさんのおっしゃったように「前回のタリバンに近づいている」というのはなぜなのか、知りたいと思いました。

・小さなことですが、こうしてズームで集まることは長い目でみて、今後のアフガニスタンの女性たちの支援にもつながることを期待します。



忘れないで アフガニスタン

ラーラスクエア10回 シルクロードシリーズ

日時：2025年10月05日（日） 20:00 -21:30
内容：カブール市
ZOOM イベント

中央アジア最古の都市のひとつであるアフガニスタンの首都カブールは、3,500年以上の歴史を誇ります。

山々に囲まれた谷間に位置するこの都市は、古くから文化と政治の交差点として機能してきました。歴史的にはシルクロードの要衝として繁栄した東西交易の拠点でもありました。カブールには、歴史的な建造物、活気あるバザール、そして多様な人々が暮らしています。

ラーラスクエアの今回のエピソードでは、カブール市と、それがアフガニスタンの民族的アイデンティティの分裂をどのように象徴してきたのかを紹介します。

申し込み：mrz.eedak@gmail.com



(写真：カブール市にあるスパイスバザール)



(写真：イランとアフガニスタンの国境。アルジャジーラ)

ヘラート情報 2025年7月現在

イランからの帰国者増大

アフガニスタンの難民がイランから驚異的なペースで強制送還されています。これは主にイランとイスラエルの対立による緊張の高まりが原因です。2025年初頭から、120万人を超えるアフガン人が帰国し、そのうち70%が強制送還です。6月24日から7月9日までの期間だけで、約50万8千人が帰国し、1日で最大5万1千人の到着が確認されています。

ヘラート国境検問所の状況は深刻です。50℃を超える極暑の中、帰国者は衰弱し、脱水症状や飢餓状態にあります。キャンプは過密状態で、住居、清潔な水、衛生施設、医療支援などの基本サービスが不足しています。国際移住機関（IOM）、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、世界保健機関（WHO）、国連児童基金（UNICEF）を含む人道支援機関は、需要の規模に対応できず、限界に達しています。女性と子ども（現在帰還者の約30%を占める）は、タリバン政権下での暴力、ホームレス化、法的保護の喪失など、最も大きなリスクに直面しています。

ヘラート市は対応に追われています。急激な人口増加により住宅がほぼ手に入らなくなり、市内でも数千人がテントで生活しています。食料価格は2倍以上に跳ね上がり、仕事がなく安定収入のない家庭の状況をさらに悪化させています。より深刻な人道危機を防止するため、緊急の国際支援を必要としています。

オンラインスクールその後

ラーラ会では、オンラインスクールに通う少女たちへの支援を一部再開する準備を進めていたところ、重大な事件が発生しました。ラーラ会は支援を中断していましたが、それでもオンラインスクールを続けていた英語教師のBさんが、5月3日ヘラートのジェブライル地区でタリバンによって逮捕されました。続いて彼女の女生徒8人も逮捕されました。Bさんは、他のNGOとも関係し、オンライン教育を通じて女子教育を促進する活動—現在の制限下で疑わしいと見なされる活動—をしていたので目を付けられたのです。

タリバンは全員のパソコンとスマートフォンを没収し、Bさんの自宅を捜索し、個人物品と教育資料を押収しました。7人の生徒は数日で釈放されましたが、Bさんは6月19日まで拘束され、当局が彼女の授業内容に「イスラム教に反する」または「西側のプロパガンダ」とされる要素がないか審査しました。最終的に、広範な尋問の末、彼女は無罪放免されました。しかしあと1人の生徒が依然拘束されています。前政府の時にジャーナリズムを勉強した彼女は、ソーシャルメディアに記事をアップし、それらがデバイスに保存されていたため、まだ拘束されています。地元の長老たちがカブールを訪れ、彼女の釈放を訴えています。（P2へ続く）

アフガン支援ラーラ会

代表：柄子レザ
Mail: mrz.eedak@gmail.com
URL: <http://lala-afg.org>
郵便振替口座番号：00930-5-249417
加入者名：アフガン孤児支援・ラーラ会
年会費：3000円（8月～翌年7月末）

★ラーラ会を支援してくださっている方々の名簿は個人情報保護の観点から、今回よりお送りしないことにいたしました。どうぞご了承ください。

★運営委員を募集しております。ホームページ更新、ラーラスクエア企画、ヘラートの情報収集などでご協力をお願いいたします。

Bさんは、オンラインスクールの資金源について主に質問されましたが、彼女は自己資金によるものだと説明。さらに内容が反タリバンや反イスラミ的な思想を促進するかどうかについても問われましたが、彼女は、それらの資料は標準的で、男子向けの授業で許可されているものと同一であると主張しました。

これらの懸念すべき展開を受けて、私たちは一時的にアフガニスタンでのすべての活動を完全に停止する困難な決定を下しました。この決定の詳細は、次の囲み記事をご参照ください。

レザ

運営委員会より会員みなさまへ

つい2か月前まで、私たち運営委員はこれまでの十分の一でもヘラートに送金を再開できるようにと願って、可能性を考えてきました。でもこっそりと数人で続けていたオンラインスクールもタリバンにとがめられ、何日にもわたり女性がタリバン警察に拘束されるような事態となつては、すべての支援の可能性をギブアップせざるを得なくなりました。支援不可能な事態がどれくらい続くか、正直なところ全く分かりません。

それでもラーラ会とヘラートの女性たちとのつながりは途切れることはありません。ヘラートの女性たちから、次々と現状報告は入ってきます。それを会員の皆さんと共有し、彼女たちの毎日に思いをはせていきたいと思っています。

★2025年度の会費はいただきません。支援再開の予想できる日が早くやってきますように。その際には、みなさん、どうぞよろしくご協力をお願いいたします。

ラーラスクエアフォローアップ:タリバンの信仰の宗教的文化的背景 シンプル説明

1. イスラム教：一つの宗教、多様な解釈

多くの人にはイスラム教が統一された信仰体系だと考えますが、実際には異なる宗派に分かれています——異なる信仰と伝統を持つグループです。預言者ムハンマドが死去した後、その信徒たちはイスラム教コミュニティを率いるべき人物について意見が二つに分かれました。

①指導権はアブ・バクル（預言者の義父）に与えられるべきだと主張したグループ。

このグループはスンニ派として知られるようになりました。

②指導権はアリ（預言者の従兄弟で義理の息子）に与えられるべきだと主張したグループ。彼らはシーア派として知られるようになりました。

時が経つにつれ、各グループはイスラム教の実践方法が異なる独自のサブグループを発展させました。例えばスンニ派イスラム教には、ハナフィー派、シャフィイー派、マリキー派、ハンバリー派の4つの主要な学派があります。

シーア派イスラム教には、トゥルワール派、イスマイル派、ザイディ派が含まれます。

タリバンは、アフガニスタン、パキスタン、インドの一部で一般的なハナフィー派の分派である厳格で保守的なデオバンディ派に属しています。また、アルカイダとISISは、スンニ派イスラム教のハンバル派に属するワハビ派のサブグループから派生しています。

2. イスラム教徒はどのような根拠に基づいて信仰を築いているのでしょうか？

イスラム教の信仰は、主に3つの根拠に基づいています。

- ・ **コーラン**：イスラム教の聖典。神（アッラー）がムハンマドに掲示した不変の言葉
- ・ **スンナ**：ムハンマドがどのように人生を送ったかの模範
- ・ **ハディース**：ムハンマドが語ったとされる言葉

例えば、イスラム教の学者たちは、ムハンマドが人類の完璧な模範であると信じています。これは、ムハンマドが53歳の時に6歳のアイシャと結婚した事実にもかかわらずです。イスラム教徒はコーランが神聖で不変であると信じていますが、歴史的研究によると、時間とともに編集された可能性もあります。ハディースとスンナはムハンマドの死後何十年も経ってから収集され、学者たちは一部が追加され、削除され、または変更されたことに同意しています。これらの不一致のため、イスラム教の学者たちはこれらのテキストの解釈に何年も費やしています。各グループはそれらを異なるように解釈するため、イスラム法は各国で異なる形をとっています。

3. シャリーア法とは何ですか？

シャリーアはアラビア語で「道」を意味します。これはイスラム法を指し、学者たちがコーラン、スンナ、ハディースをどう理解するかに基づく規則の体系です。ほとんどのイスラム教国では、法体系の一部がシャリーアに基づいています。しかし、各グループがこれらの出典を異なるように解釈するため、シャリーアは場所によって異なります。アフガニスタンでは、タリバンのシャリーア解釈はデオバンディ・ハナフィー派の信仰に形作られています。この解釈は特に女性の社会的役割に関して極めて保守的です。

4. 文化も大きな役割を果たす

宗教に加え、タリバンはアフガニスタン最大の民族グループであるパシュトゥン民族の一員です。パシュトゥン文化は、女性の役割に関する伝統的な見解を強く持っています。その基盤となる3つの主要な概念は、まず名誉と謙虚さ（ナングとナムス）：女性の行動は家族の名誉を反映します。この名誉を守るため、家族は女性が公共の場でできること、服装、交流する相手を制限することがあります。二つ目は性別役割：パシュトゥン伝統では、女性の主な役割は母親、妻、介護者であることが定められています。女性の教育、就労、公共生活は、特に農村部ではしばしば抑制されてきました。そして、パーダ（隔離）：女性は公共の場で目立たないようにすることが求められます。これには、ブルカ（全身を覆う衣装）を着用し、男性の後見人（マハルムと呼ばれる）の同伴なしに家を出てはいけなことが含まれます。

これらを総合するとタリバンの女性に対する制限は、以下の両方の要因によるものです。極端に保守的な宗教的信念、および伝統的なパシュトゥン文化の価値観。これらの要因が組み合わさり、女性から教育、仕事、移動の自由といった基本的人権が奪われるシステムが形成されています。

ちょっと、いい話

6月の運営委員会で一枚の写真をレザさんから見せてもらいました。ヘラートのある女性が友人を数人（こっそり）家に招いて、何と全員完璧にお化粧し、それはきらびやかな、ゴールドコインやゴールドの刺繍あるカラフルな民族衣装でポーズをとっているのです。

材料は売っているので、自分で作れるのだとか。

「彼女たち、何か活動しているよね。引きこもって悲しみにくれるだけなんてことはないのよね。」と、みんな感心しました。その写真は、ラーラ通信に掲載！と言うわけにはいかないので、みなさんに見ていただけないのがとても残念です。



(ハザラ民族の衣装)